

子どもが育つ環境の変化と これから求められる力とは？

～岐阜市「幼児期の家庭教育調査」結果の一部ご紹介～



2019/6/26

(株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所 真田 美恵子

●子どもが育つ環境の変化

<過去～今> <今～未来>

●これから求められる力とは？

幼児期にどう育むか？

児童期にどうつなぐか？



岐阜市「幼児期の家庭教育調査」概要

- 調査テーマ 園における幼児の経験、発達、子育てに関する親の意識と実態
- 調査方法 園通しのwebアンケート（協力は任意）※謝礼なし
- 調査時期 2019年2月～3月
- 調査対象 岐阜市内の幼稚園・保育園・私立認定こども園に通う年少児～年長児をもつ保護者（全世帯）
※該当する子どもが複数いる場合は、最も年齢の高い子どもについて回答
- 有効回答数 幼稚園575名、保育園220名、私立認定こども園55名 ※母親のみ分析

<回収数>

最も高い回収率であった園では48.6%（公幼）。
回収率0%の園は私幼1園、私保1園、認定こども園2園。

	配布数	回収数	回収率
公立幼稚園(2)	177	76	42.9%
私立幼稚園(34)	6,264	547	8.7%
幼稚園全体	6,441	623	9.7%
公立保育所(19)	1,286	171	13.3%
私立保育園(19)	1,582	74	4.7%
保育所(園)全体	2,868	245	3.0%
私立認定こども園(10)	888	59	6.6%
園全体	10,197	927	9.1%

<有効回答数内訳>

- 園の種別：【幼稚園】公立12.3%、私立87.7%
【保育園】公立69.5%、私立30.5%
【認定こども園】私立100%
- クラス：年少32.5%、年中32.6%、年長34.9%
- 子どもの性別：男児49.9%、女児50.1%
- 子どもの出生順位：第1子60.7%、第2子30.6%、第3子以降8.7%

母親の子育て肯定感(楽しさなど)は、8~9割程度(よくある+ときどきある)であり、全国調査と比べてやや高めの傾向。

Q あなたは最近、子育てについて次のことを感じるものがどれくらいありますか。

(%)

楽しさ・自信

子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだ

■ よくある ■ ときどきある



参考)全国51.8(よくある。以下同)

子育てによって自分も成長している



参考)全国54.2

自分の子どもは結構うまく育っている



参考)全国29.7

不安・負担

子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になる



参考)全国31.7

子どものことでどうしたらよいかわからなくなる



参考)全国14.5

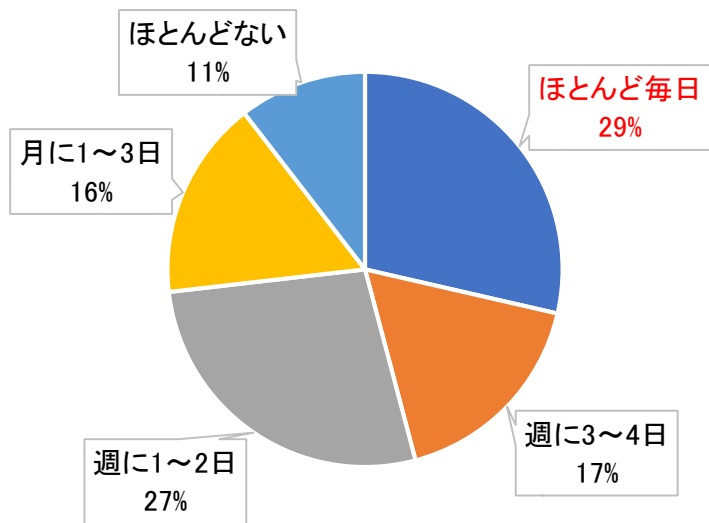
子どもがわずらわしくていららする



参考)全国9.4

絵本や本の読み聞かせ、読んだ本の冊数は、全国調査と比べて高い傾向。
読み聞かせの頻度は「ほとんど毎日」が全体の約3割。

Q あなたは日頃、どれくらいの頻度でお子さまに絵本や本の読み聞かせをしていますか。

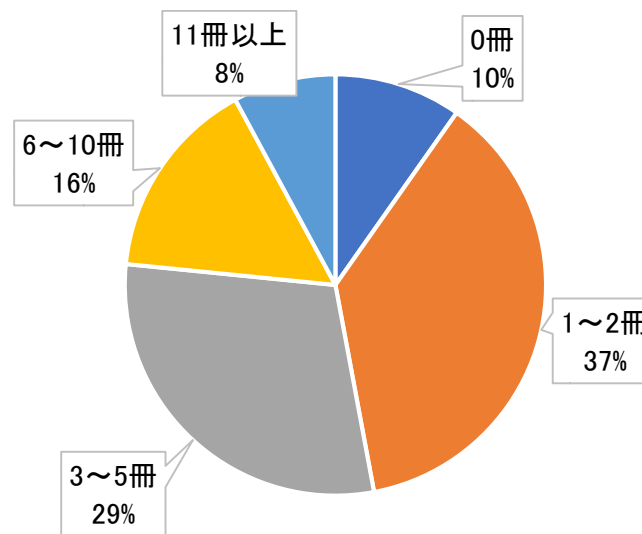


「週3日以上」の比率

【岐阜市】幼稚園46.3%、保育園43.6%
【全国】幼稚園43.8%、保育園34.2%

Q お子さまが、ご家庭や図書館など園以外で先週1週間の中で、絵本や本を読んだ（見た）冊数はどれくらいですか。

(%)



「0冊」の比率

【岐阜市】幼稚園9.4%、保育園11.8%
【全国】幼稚園13.9%、保育園17.5%

子どもが育つ環境の変化

<過去～今>

幼児が育つ場は、家庭と園が中心に



幼児の家庭の変化(全国)

7

- ✓ 子どもが生まれるまでに、赤ちゃんに接したことがある乳幼児の親は約半数

0～2歳児をもつ母親: **51.1%** 父親: **45.1%**

出典:「妊娠出産子育て基本調査」2011(ベネッセ教育総合研究所)

- ✓ 乳幼児の親の年齢幅は広い

1歳半～2歳半をもつ母親: **19歳～48歳** 父親: **22歳～59歳**

- ✓ 未就園児をもつ母親が、同年代の子どもがいる人と話をする機会

※ 1歳半～2歳半。子どもが一人。

ほぼ毎日 8.6%

週に3～4日 18.1%

週に1～2日 34.9%

月に1～3日 25.0%

年に数日 **6.8%**

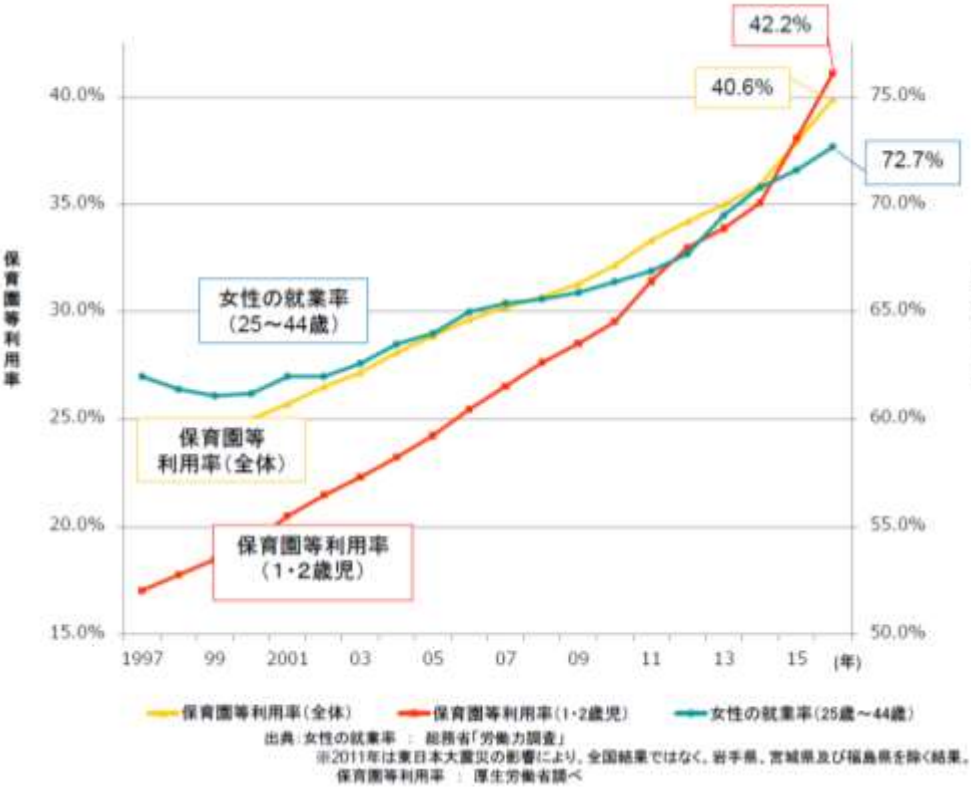
ほとんどない **6.6%**

出典:「乳幼児の生活と育ちに関する調査2018」(ベネッセ教育総合研究所)

幼児の家庭の変化(全国)

● 保育園等利用率と女性就業率の推移

働く母親が増え、
低年齢からの
保育園等利用率が増加



● 保育園・幼稚園・幼保連携型認定こども園の年齢別利用者数及び割合



※保育園の数は平成29年の「待機児童数調査」（平成29年4月1日現在）より、なお、「保育園」には地方無償型認定こども園、保母型認定こども園、特定地域型保育園も含む。4歳と5歳の数値については、「待機児童数調査」の4歳以上の数値を「社会福祉施設等調査」（平成28年10月1日現在）の年齢別の保育所、保母型認定こども園、小規模保育所の利用者数により算出したもの。
 ※幼稚園の数は平成29年度「学校基本調査」（推定値、平成29年5月1日現在）より、なお、「幼稚園」には特別支援学校幼稚園、幼保連携型認定こども園も含む。
 ※幼保連携型認定こども園の人数は平成29年度「認定こども園に関する状況調査」（平成29年4月1日現在）より、
 ※該当年齢人口は総務省統計局による人口推計年報（平成28年10月1日現在）より、
 ※「推計未就園児」は、該当年齢人口から幼稚園在園者数及び保育園在園者数を差し引いて推計したものである。
 ※幼児入りの割合により、合計が出ない場合がある。

幼児の家庭の変化(首都圏)

幼児が園で過ごす時間が長くなり、園の存在感が増している

図1-2-1 家を出る・家に帰る平均時刻と家の外にいる平均時間(就園状況別 経年比較)



※ 子どもを園に通わせている人のみ回答。

※ 家を出る時刻、家に帰る時刻のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。

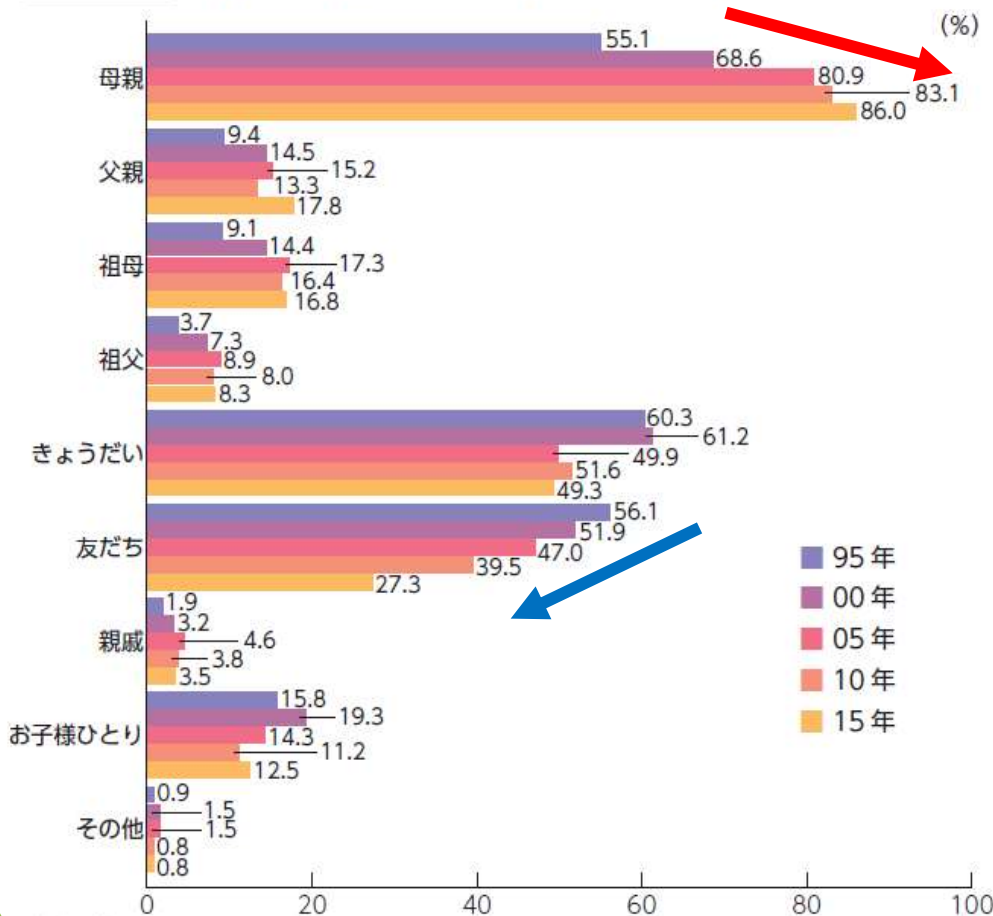
※ 95年調査は、「18時以降」を18時30分、00年調査以降は、「18時頃」を18時、「18時半頃」を18時30分、「19時以降」を19時と置えて算出した。

※ 「家の外にいる平均時間」は、「家を出る平均時刻」と「家に帰る平均時刻」から算出した。

出典：「第5回幼児の生活アンケート」(ベネッセ教育総合研究所)

平日、園以外で「友だち」と遊ぶ幼児は20年間で減少した

図1-3-2 平日、(幼稚園・保育園以外で)一緒に遊ぶ人(経年比較)



※複数回答。

母親にとって、子育ての重要な情報源が「園の先生」

● 子育てやしつけの情報源

<保育園児の母親>

- 1位 園の先生 70.6%
- 2位 友人・知人 67.3%
- 3位 (自分の)両親 41.9%

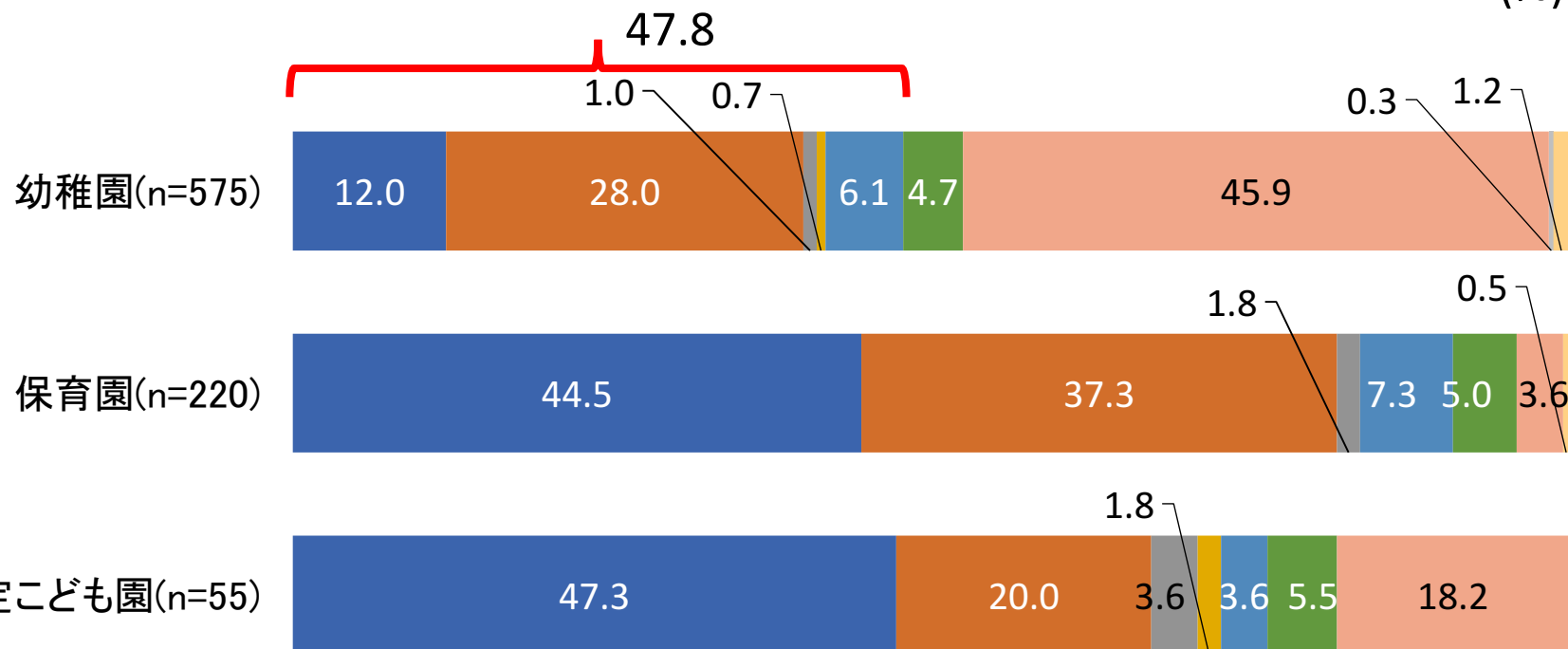
<幼稚園児の母親>

- 1位 友人・知人 80.6%
- 2位 園の先生 43.4%
- 3位 (自分の)両親 38.8%

※複数回答。※人やwebメディアなど22項目から、人のみ集計。※母親の回答のみ分析。※「(自分の)両親」は調査項目では「(母方の)祖父母」としていた。

岐阜市調査では、幼稚園児の母親の47.8%が働いている。

(%)



- 正社員・正職員 (休職中を除く)
- パート・アルバイト
- 契約社員・嘱託社員 (休職中を除く)
- 派遣社員 (休職中を除く)
- 自営業・在宅ワーク
- 休職中
- 母親はいない (離死別、別居、単身赴任等)
- 無職 (専業主婦など)
- その他
- 答えたくない

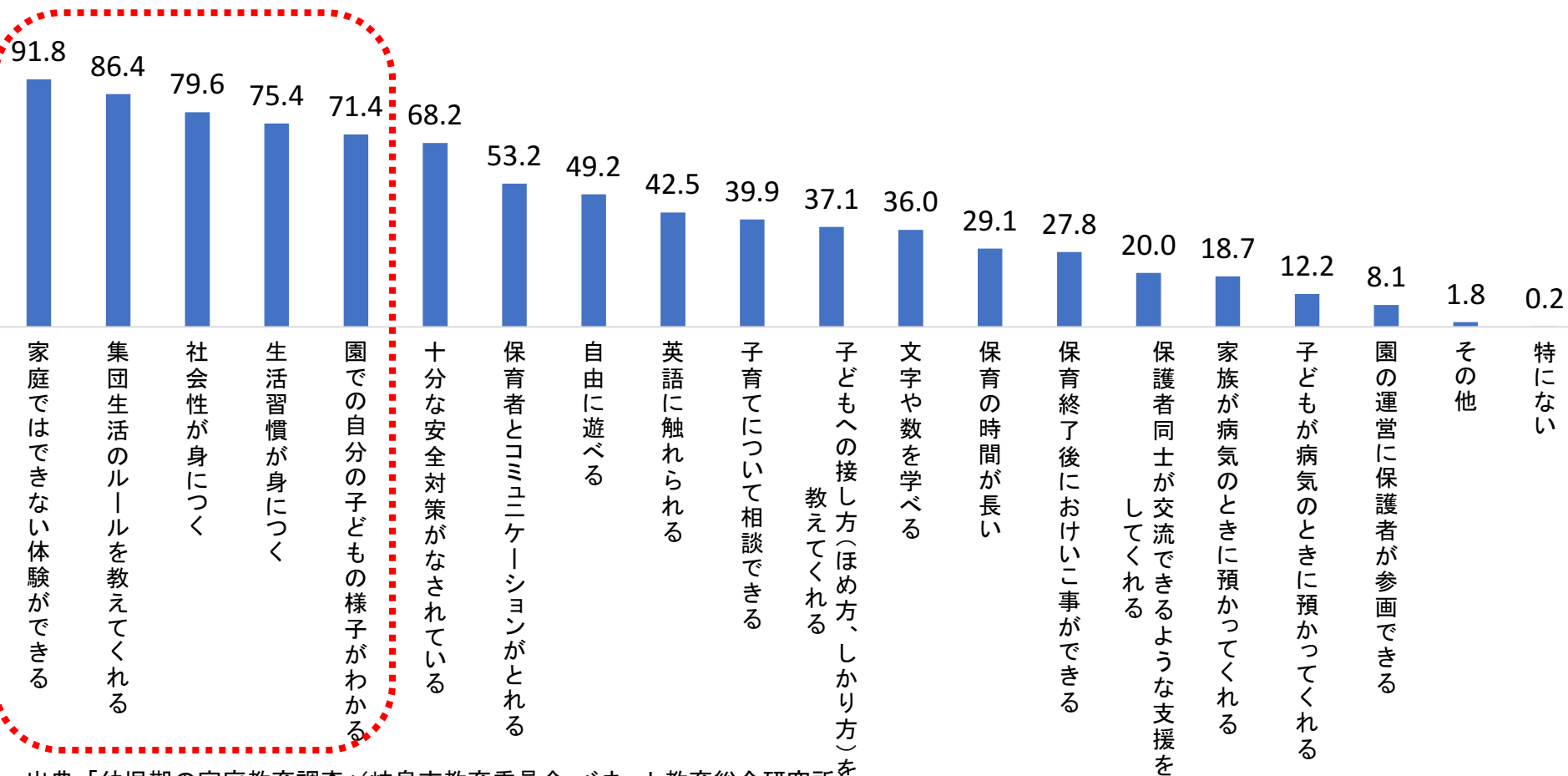
園への期待として、「家庭ではできない体験」「集団生活のルール」「社会性」「生活習慣」「園での子どもの様子がわかる」が7～9割と高い。

Q

あなたは、お子さまが通う園に対して、どのようなことを期待していますか。

お子さまの園でできているかどうかにかかわらず、あなたが期待しているものをすべてお選びください。（複数回答）

(%)



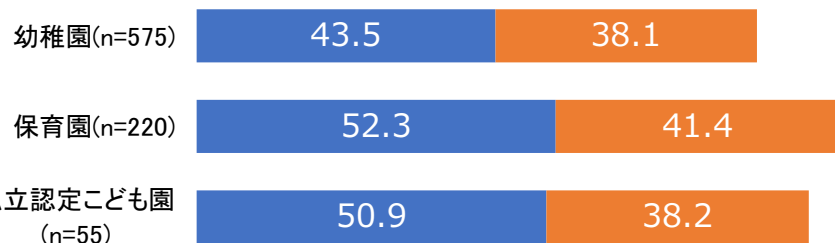
出典:「幼児期の家庭教育調査」(岐阜市教育委員会・ベネッセ教育総合研究所)

保護者にとって、園との様々な接点が、子育ての参考になっている。

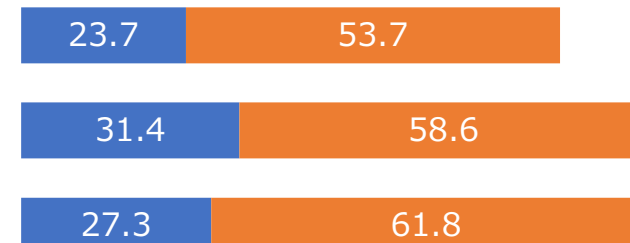
Q 次にあげる園からの情報は、（園でのお子さまの様子やお子さまへの接し方がわかるなど）子育てをするうえでどれくらい参考になっていますか。

(%)

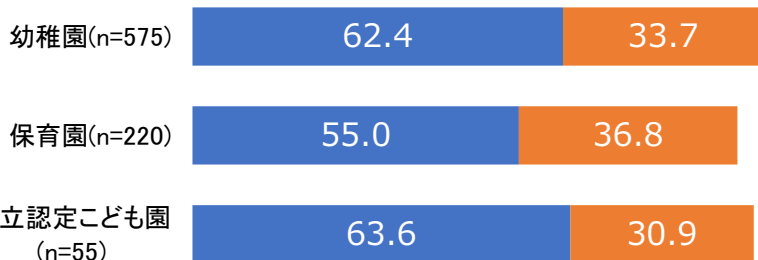
● 送迎時の先生や職員との会話



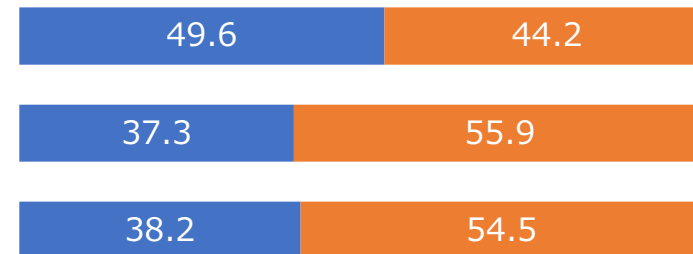
● 園内の掲示物



● 保育参観や保育参加



● 園便りや学年便り、クラス便り



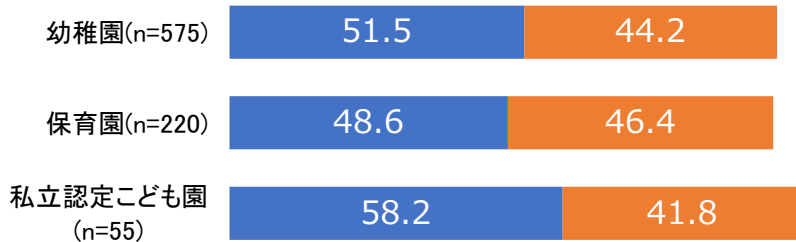
■ とても参考になる ■ まあ参考になる

幼児の家庭の実情

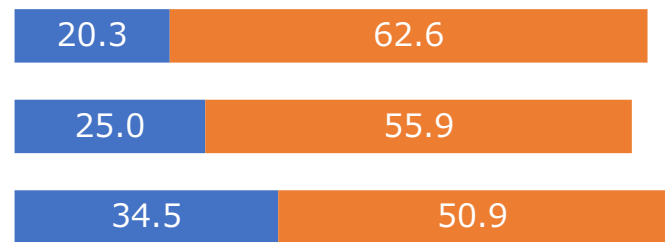
母親の99.5%は、園生活を通して子どもの成長を実感(図略)。
 また、多くの親が子どものよさに気づき、子育ての安心感や視野の広がりを得ている。

Q 園生活を通して、次のことをどれくらい感じますか。

● 子どものよさや得意なことに気づいた

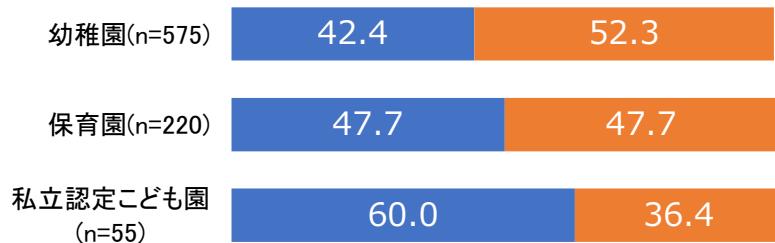


● 子どもへの関わり方がわかった

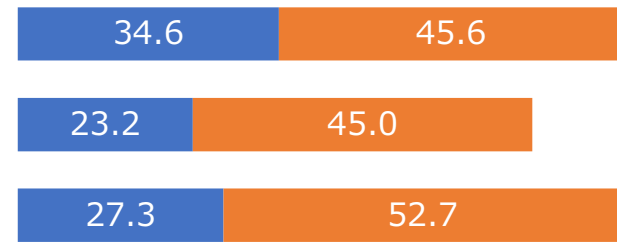


(%)

● 安心して子育てできた



● 自分の視野や人間関係が広がった



■ とても感じる ■ まあ感じる

幼児の家庭の実情

園生活を通して、子どもの成長を感じたエピソード ※年長児の母親の回答の一部を抜粋

仲間と協力することの大切さや粘り強さを学び、何か一つのことをみんなでやり遂げたという経験から**自信をつけている**など感じます。



他のお友達の気持ちを想像したり自然に手を貸す様子が見られるようになった。園の中にハンディーを抱えたお友達が当たり前になっていたため、園全体に共に生きるという優しい気持ちが溢れていたことは**生涯の宝物**であると思います。



年少の時に、お世話係の年長のお兄さんが手助けをしてくれ、とても心強かったようで、自分が年長になったときに小さなお友だちに「こんにちは、僕がこれから一緒にいてあげるからね。一杯楽しいこと待ってるよ」と、お友だちの目を見てとても優しく挨拶をしていたそうです。お世話も無理矢理したりすることなく、**年少さんに寄り添って手助けしている姿が本当にすごい**と思います。



園でドミノ遊びに夢中になり、時間を忘れて何日も繰り返して遊ぶ中で**集中力**がついてきた。先生からの干渉なく、**子ども達同士で遊びを考え出し、取り組んでいる。積極性・創造性・やり抜く力等、変化の多いこれからの時代を生き抜く基礎的な能力を、園生活を通して複合的に身に付けている**と感じている。



園生活を通して、母親自身の成長を感じたエピソード ※年長児の母親の回答の一部を抜粋

お友達の成長と比べなくても、園の先生が息子のいいところをたくさん見つけて褒めてくださったので、**息子の良さを再認識し自信がつき焦ったりイライラしなくなった。**



P T Aの活動は負担に思うこともあるが、色々なお母さん方と話しをする中で、**さまざまなものの見方、考え方があることを知り**、子育てにフィードバックさせている。また、園長や先生方とも話す機会が増え、**幼児教育の大切さを改めて知る**機会も多くなった。

子どもの良かったことや成長したことを保育士が教えてくれたり、自分が忙しいことへの気遣いや配慮があることで、**心にゆとりが持てた。**



子供の成長にとって、基本的な生活習慣がどれだけ大切かを園から教わり、サポートしていただき、**子育ての軸を持つ**ことができました。親として日々すべきことを頑張っています。**子育ての基本を学ぶ**ことができ、園のお陰だと感謝しています。

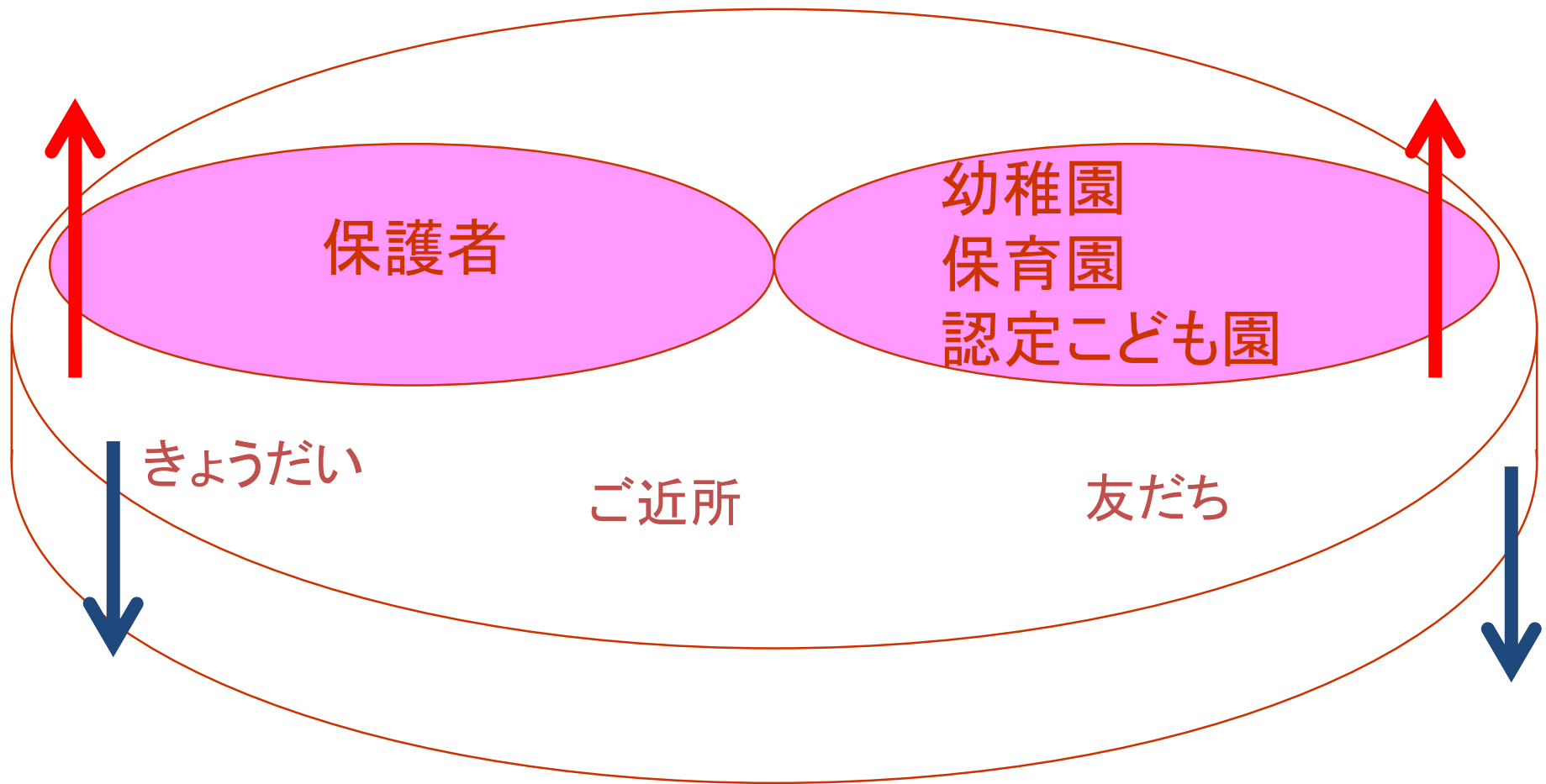
先生から子どもの園での頑張りを聞いて、もっと褒めてやって良いんだと安心できたので、**迷いなく子どもの得意げな様子を受け入れられた感覚**が生まれた。



子どもが毎日にこにこしながら園生活を楽しんでいるので、**罪悪感なく仕事に行ける。**



現代の幼児の親子を支えるために、
【家庭教育の支援】と【園の幼児教育の充実】は両輪



子どもが育つ環境の変化

<今～未来>

未来の社会を生きる子どもたちは、
多様な人と関わり、さまざまな道具を使いながら、
答えのない課題に向き合わなければならない

クイズです。

これは2017年生まれの子どもの将来に関する何の数字でしょうか。

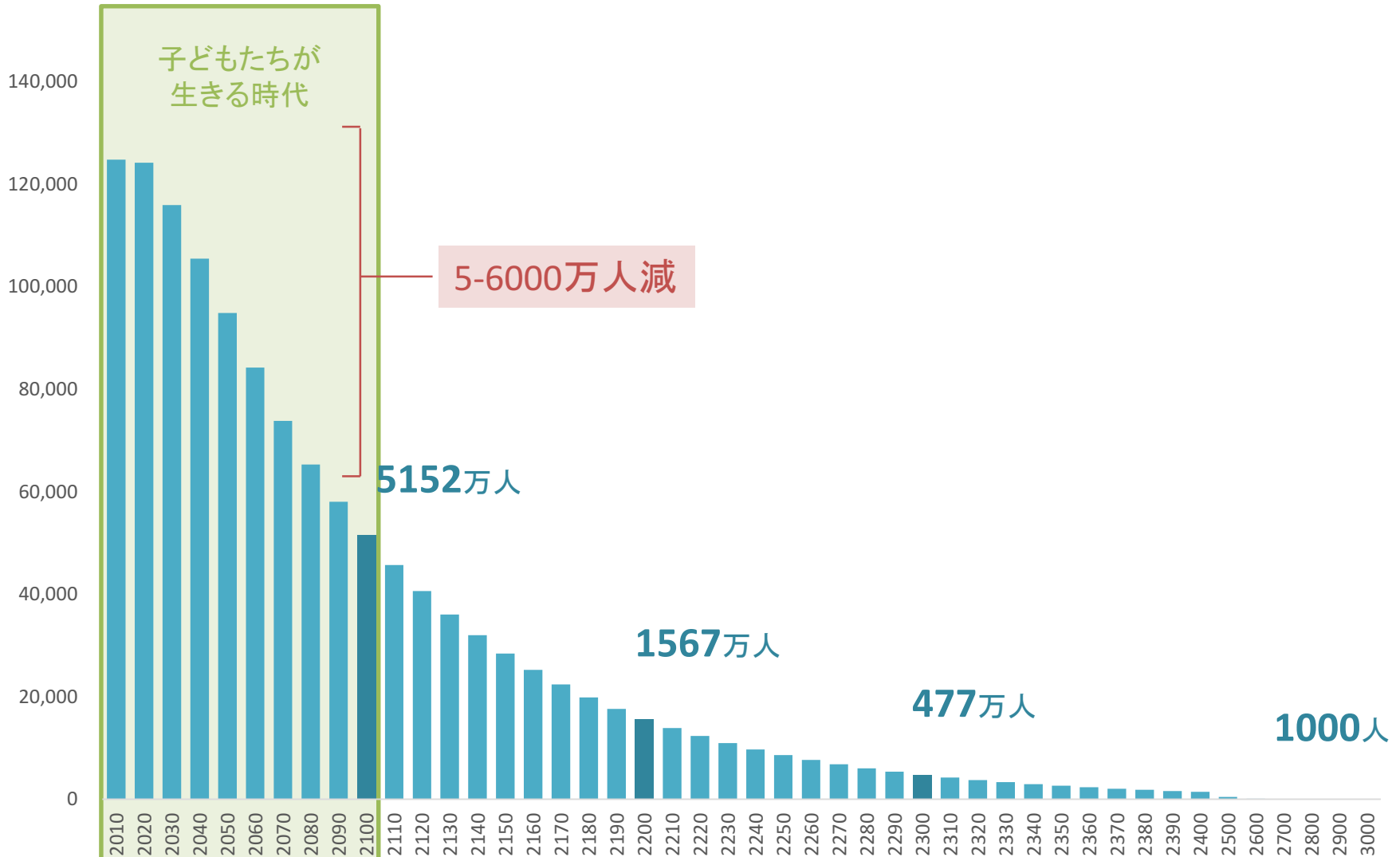
84.1%

- ① 4年制大学進学率
- ② 教育費に1000万円以上かける家庭の比率
- ③ 22世紀生存率

今後、日本の人口は急速に減少していく予測 20

日本の総人口・国内出生数の「超」長期予測（出生率1.40で計算）

単位：1000人



※「日本の将来人口推計」(国立社会保障・人口問題研究所)をもとにベネッセ教育総合研究所が作成

<http://www.ipss.go.jp/svovshika/tohkei/newest04/sh2401srm.html>

技術や産業構造の変化が加速
＝これからの社会変動は、非常に目まぐるしい

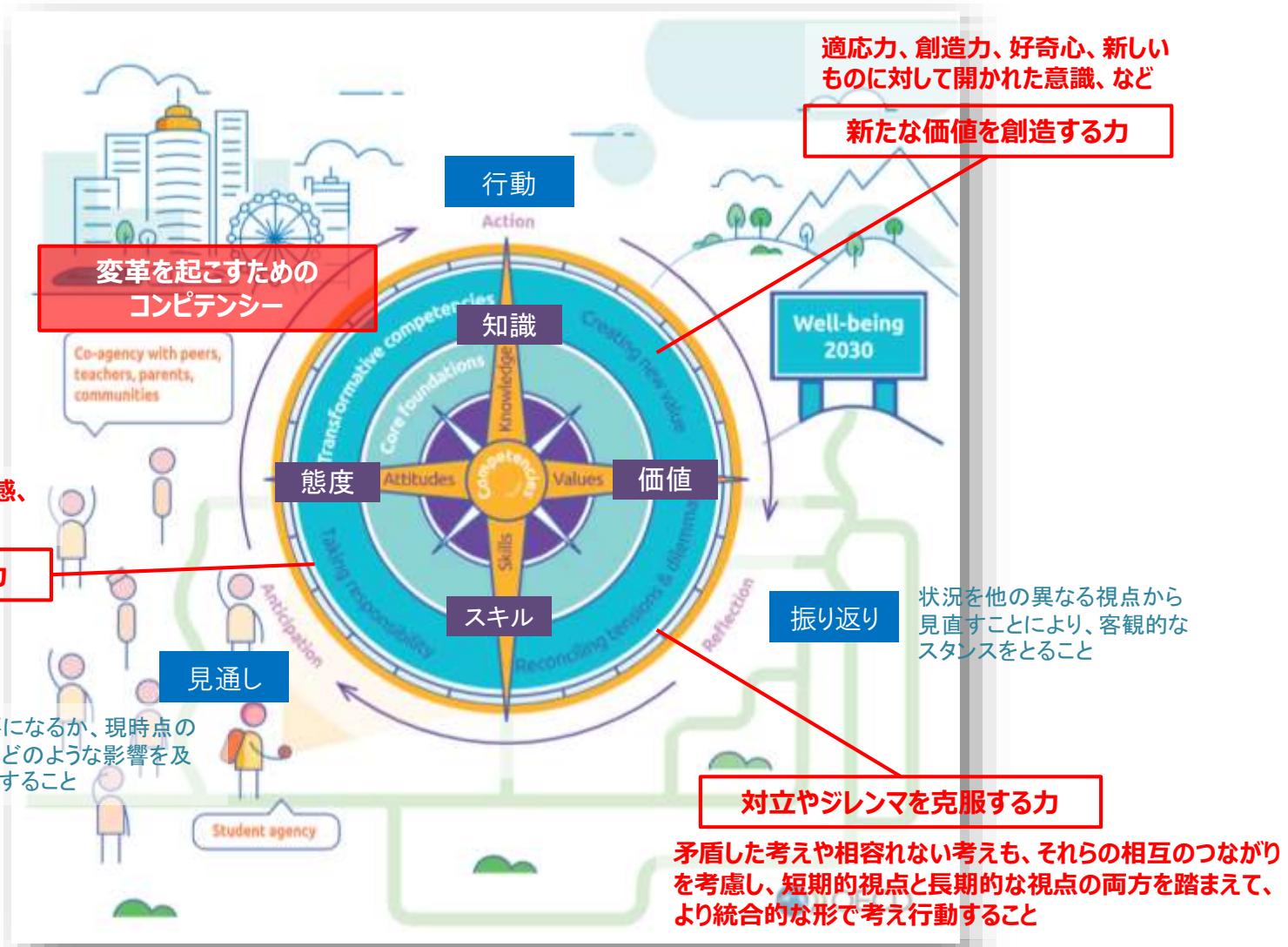
解決したい、世界的な課題



これから求められる力とは？

幼児期にどう育むか？

児童期にどうつなぐか？



<http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等
の育成

生きて働く知識・技能の
習得

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

☆これまでのよさを継承し、さらに充実・発展させる

●縦のつながりの強化

⇒小学校以上への接続

- ・幼小接続の課題
- ・幼児期の教育の効果

●横のつながりの強化

⇒幼・保・認の幼児教育に関する記載の共通化

3歳以上の幼児期の施設での教育

- ・三元化の実態
- ・どの園でも、しっかりとした幼児教育を受けられるように

「10の姿」

5歳児修了時までには育ってほしい
資質・能力が発揮されている姿

- ・幼児期の育ちの**方向性の目標**=小学校入り口での子どもの姿
- ・この姿を幼小で共有することが、円滑な接続の要

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・ 生命尊重
8. 数量・図形、文字等への関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現



粘り強さや、行動・感情のコントロール、協調性などの力を指します。従来のテストで測る読み書き計算（認知的スキル）とは異なる力で、「非認知的スキル」とも呼ばれています。

ベネッセの研究では、5つのカテゴリーに分類

(例)

好奇心

- 新しいことに好奇心をもてる

協調性

- 遊びなどで友だちと協力できる

がんばる力

- 物事をあきらめずに挑戦できる

自己抑制

- 自分がやりたいと思っても人の嫌がることはがまんできる

自己主張

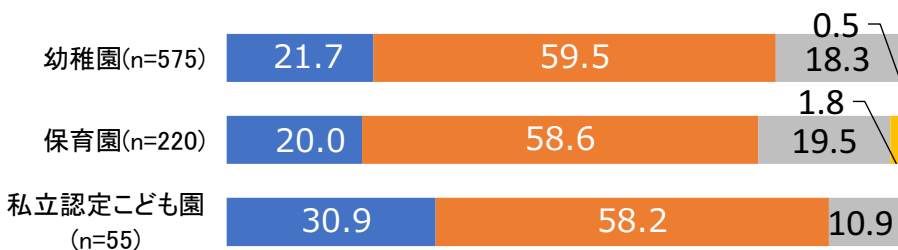
- 人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる

ベネッセの研究では、家庭での「子どもの意欲を尊重する」親の態度や、園での子どもの「遊び込む経験」(※)が、学びに向かう力と関連

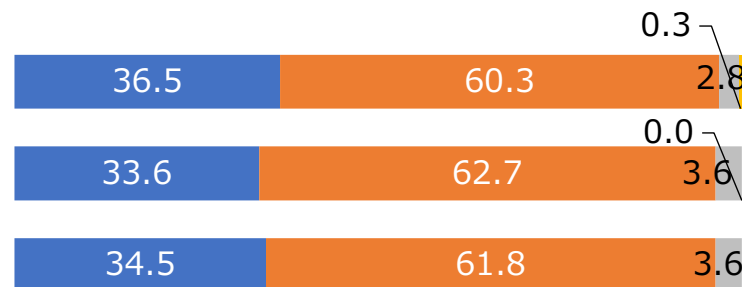
意欲の尊重は、いずれの項目も「する」(よく+ときどき)が7~9割と高い。
 全国調査とほぼ同様の傾向である。

(%)

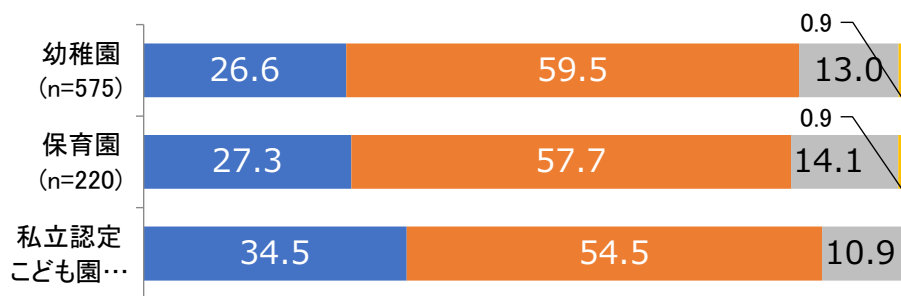
● しかるよりもほめるようにしている



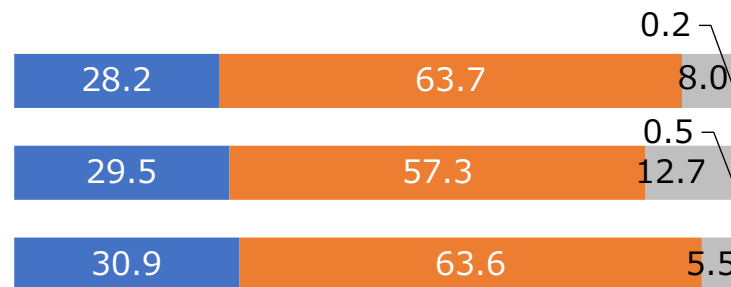
● 子どもがやりたいことを尊重して支援する



● しかるときに子どもの言い分を聞く



● どんなことでも子どもの気持ちを受け止める



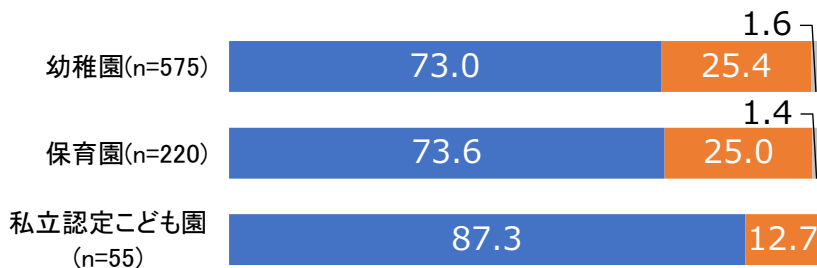
■ よくする ■ ときどきする ■ あまりしない ■ まったくしない

総じて、遊び込む経験の比率は高い。「自分で好きな遊びを選んでも」「好きなことや得意なことをいかして遊ぶ」は、特に幼稚園児、認定こども園児において、全国調査よりも高い(「よくあった」で5ポイント以上)傾向が見られた。一方で、(全国調査と同様に)「挑戦的な活動に取り組む」「見通しをもって遊びに取り組む」は、約1~2割程度が「なかった」(あまり+まったく)と回答。

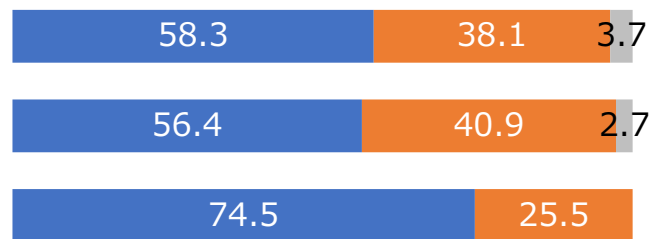
Q お子さまは園での生活を通して、この1年間で次のことがどれくらいありましたか。

(%)

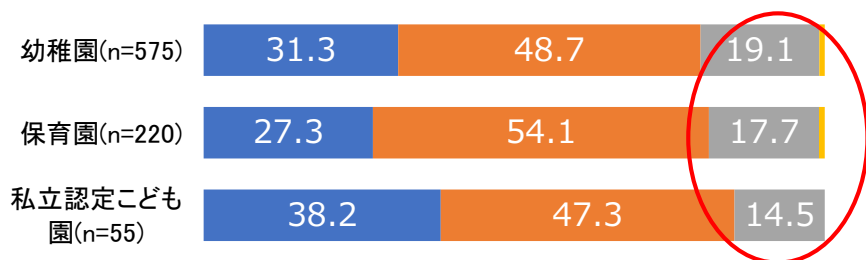
● 自分で好きな遊びを選んでも



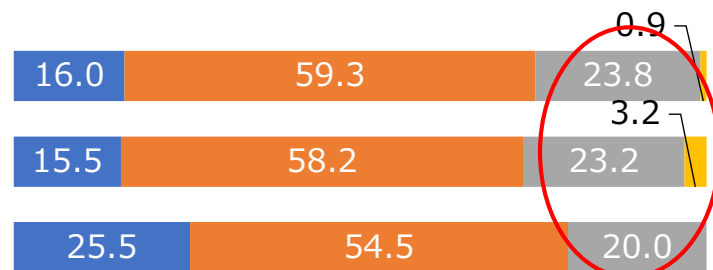
●好きなことや得意なことをいかして遊ぶ



● 挑戦的な活動に取り組む



● 見通しをもって遊びに取り組む



今年は「子どもの権利条約」採択から30周年。子どもは自らの人生の主人公。

第3条 子どもにもっともよいことを

子どもに関係のあることを行うときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。

第29条 教育の目的

教育は、子どもが自分のもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものです。

第12条 意見を表す権利

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。

第31条 休み、遊ぶ権利

子どもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加する権利をもっています。

キーワードをいくつか…

子どもから
始まる

子どもを
肯定的にみる

子どもを
理解する

子ども
を(と)語る

願いと姿を
つなぐ

保育をひらく

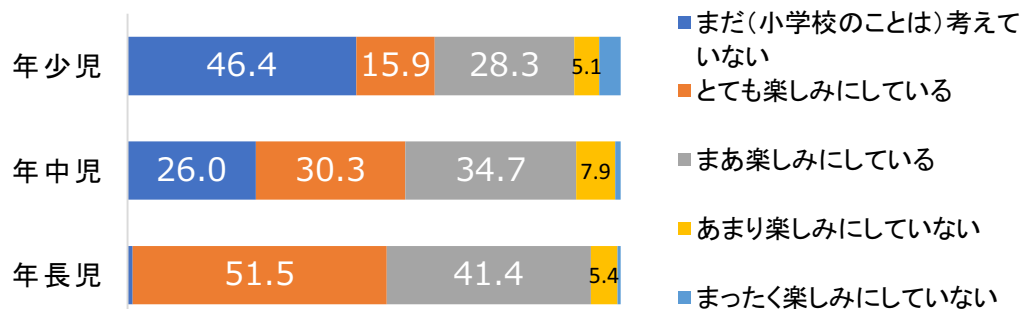
専門家と
つながる

保護者と
共有する

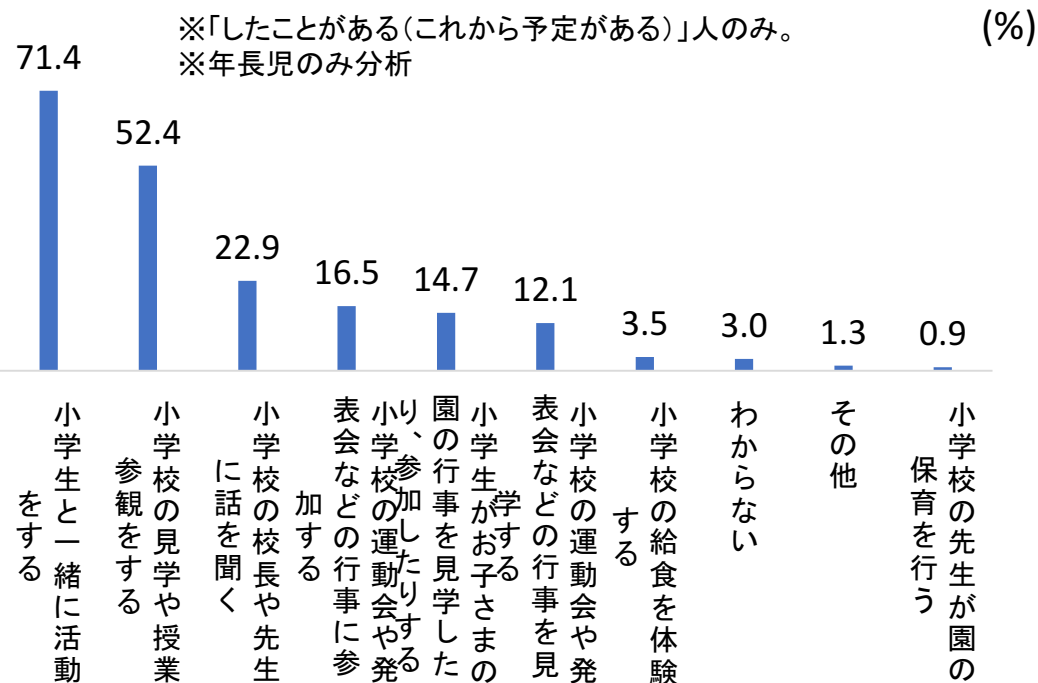
小学校入学に向けて

年長児の母親の22%は、地域の小学校との交流について「したことがない」「わからない」と回答。交流活動の中では「小学生と一緒に活動をする」が最も多い。

Q お子さまは現在、小学校への入学をどれくらい楽しみにしていますか。 (%)



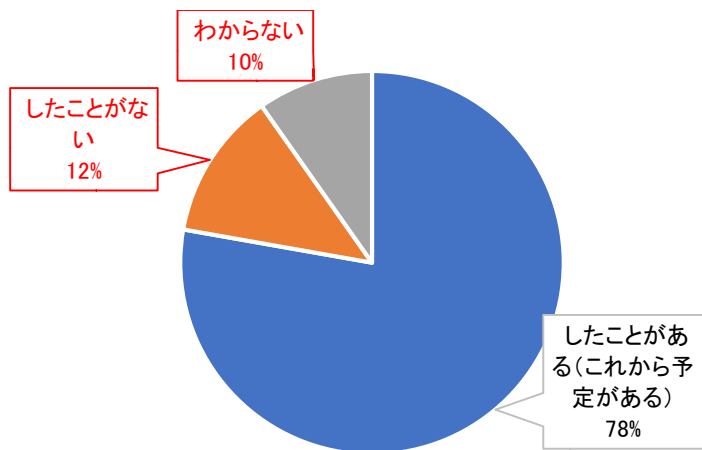
Q 「1. したことがある(これから予定がある)」と答えた方におたずねします。それはどのような交流活動ですか。(複数選択)



Q お子さまは、園の活動を通して、地域の小学校と交流したことがありますか。(これから予定がある場合はそれも含めてお答えください)

※年長児のみ分析

(%)



出典:「幼児期の家庭教育調査」
(岐阜市教育委員会・ベネッセ教育総合研究所)

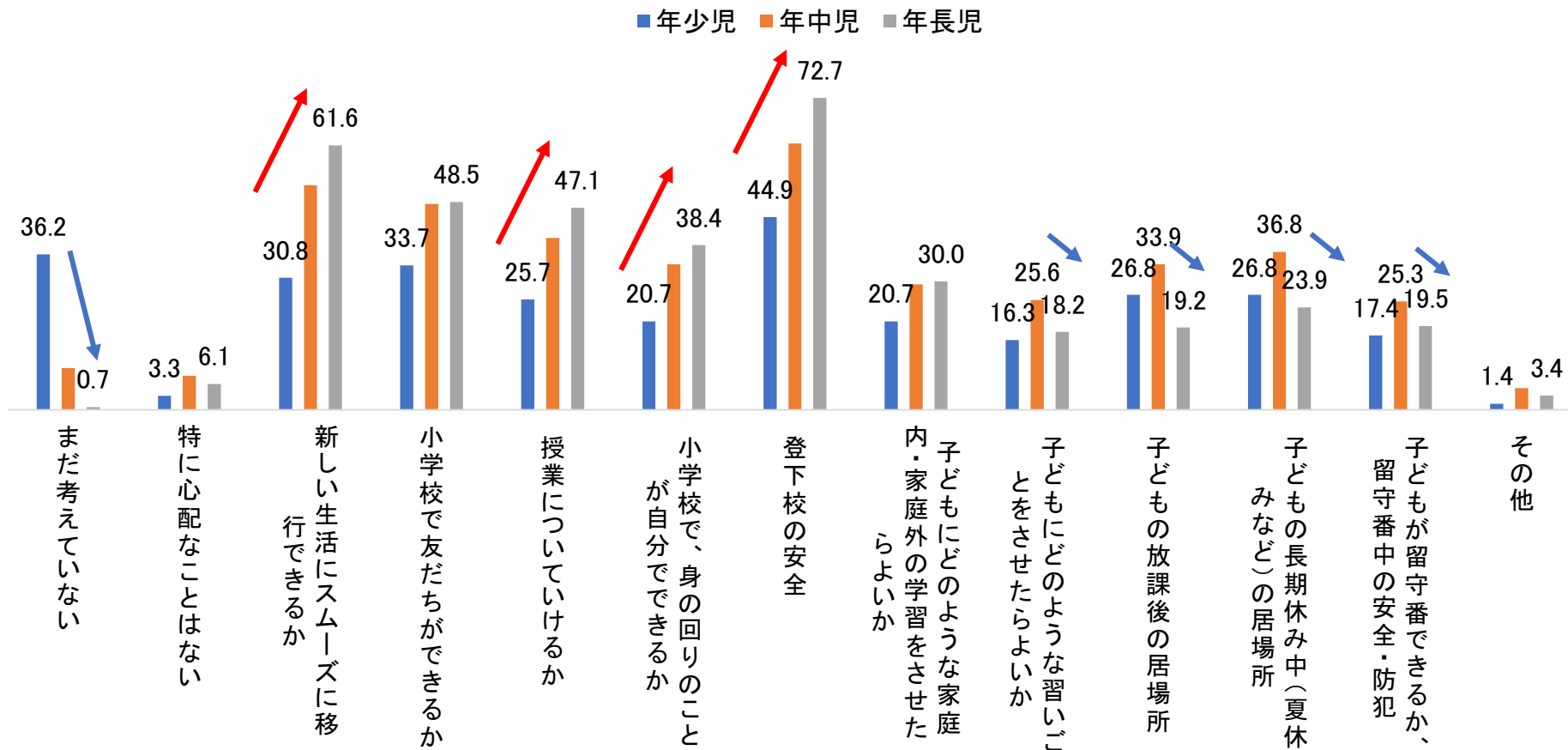
小学校入学に向けた心配

年長児で高くなるのが「登下校の安全」(72.7%)、「新しい生活への移行」(61.6%)、「授業についていけるか」(47.1%)、「身の回りのことが自分でできるか」(38.4%)。特に保育園児の母親において、友だちづくり、授業、生活、学習、長期休みや放課後の居場所、習い事、留守番など、全体的に心配が多い傾向がみられた(図略)。



お子さまの小学校入学にあたり、保護者として心配なことはありますか。(複数選択)

(%)

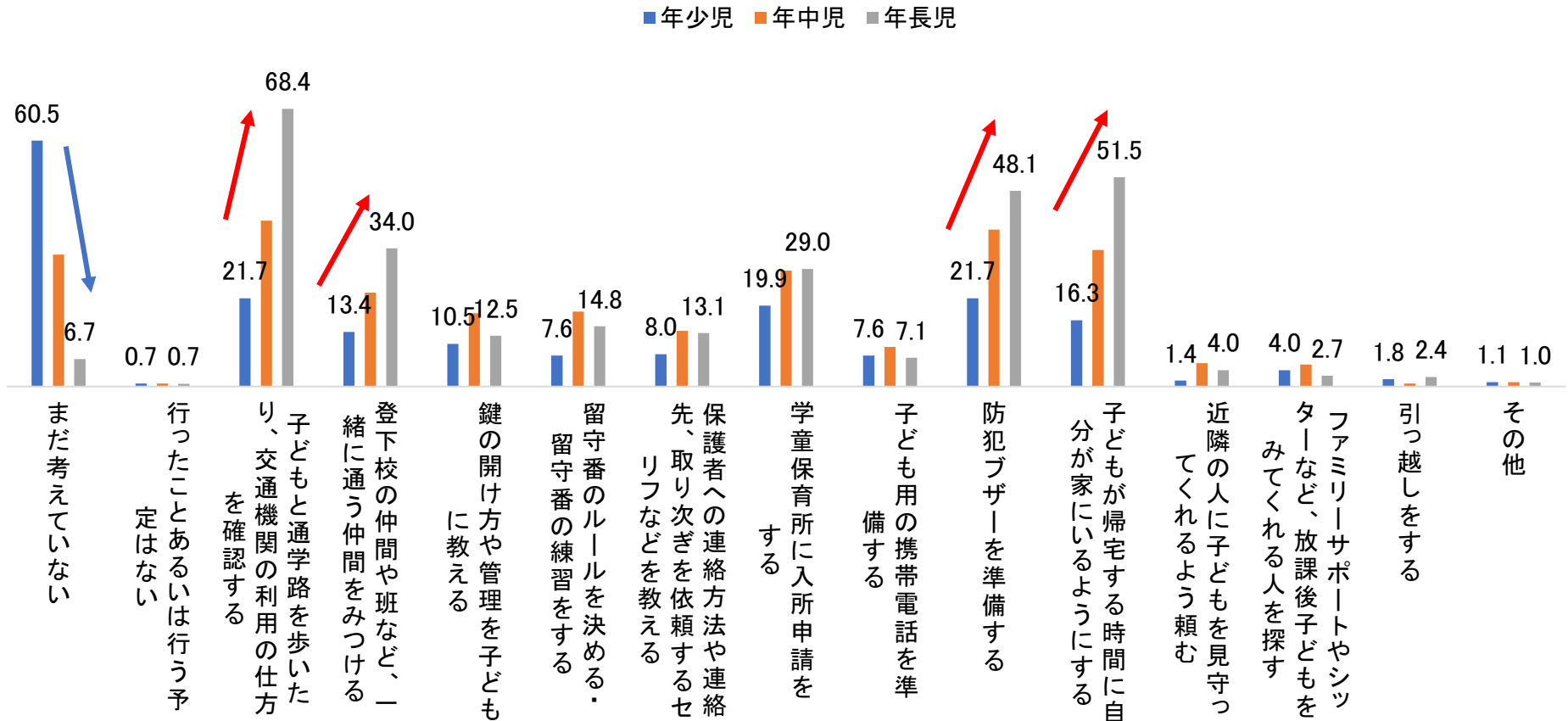


年長児の約7割の母親は「子どもと通学路を歩いたり、交通機関の利用の仕方を確認する」、約半数は「子どもが帰宅する時間に自分が家にいるようにする」「防犯ブザーを用意する」。

Q

お子さまの小学校入学にあたり、放課後の安全確保を目的として行ったことあるいは行う予定があることについて、あてはまるものをすべてお選びください。（複数選択）

(%)



● 子どもが育つ環境の変化

＜過去～今＞家庭と園が中心に

- ・家庭教育をいかに支援するか
- ・園の保育の質をいかに高めるか

＜今～未来＞答えのない課題が山積

- ・「学びに向かう力」の育成が課題

● これからの学び

- ・幼児教育から高等教育を貫く「3つの資質・能力」の育成、「10の姿」を活用しながら、いかに子どもの育ちを支えるか
- ・家庭との連携、親の理解促進、不安への対応

● 岐阜市の状況（資料1等より）

＜状況＞

- ・低年齢からの保育利用の増加（共働き率の増加）
- ・子どもが通う園種の多様さ（幼児の多くは私立幼稚園）
- ・約8割の公立小学校では10園以上から子どもが入学

＜幼児教育課の取り組みの柱＞

- ①幼保小の接続
- ②家庭教育の応援
- ③実践研究の推進